

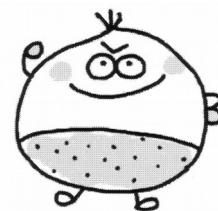
# HDM推進会（第 55回）／ごみゼロネット推進会（第 77回）議事録

開催日： 2014 年 (H26 年) 10 月 8 日 (水) 10:00 ~ 11:50

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 大橋、加藤、平林、杉本、林、蜂谷、桐生（作成）

議 題：



## 1. 加藤氏より資料提出して説明

(1) ごみ処理基本計画策定（素案）検討資料の問題点： 9/19 付け加藤氏作成

9/18 第 2 回ごみ減量審議会での質問：三市の新ごみ処理基本設計書で「小金井市の H24 可燃ごみ排出実績 14,657 トンである。市のごみ処理基本計画素案は同じ実績が 12,195 トン。この 2,462 トンの違いは何か」

⇒市からの回答 「三市共同処理で手数料が安くなると、現在業者が処理している事業系ごみが市の持ち込みごみに返ってくる可能性があるため、それを実績の推定値として入れた実績値に推定値を加えて水増しデータを公式書類に書くのは悪質な違法行為ではないか！結果としてこの分（約 100 トン / 日）だけ日野市の新焼却場の計画能力を増やすことになる条例により本来事業者の責任で行うことになっている事業系ごみを市が引き受けることになる不自然さは非常に不明瞭な策謀を感じさせる。

(2) 廃棄物減量等推進審議会大江会長宛意見具申 / H18 年度策定の基本計画書の検証：9/22 付け加藤氏作成

- 「生ごみの分別収集」を重点施策として位置づけていたのに、計画 5,700 世帯に対し、生ごみ処理機購入世帯数 265。
- 内、乾燥型 185 世帯の乾燥物を戸別回収しているから、市は「分別回収している。この上、生ごみの分別回収をする気はない」と強弁している。
- 生ごみ堆肥化実験事業は生ごみ換算 13 万円 / トンと極めて高い。市は検証と市民に対する説明責任を果たすべきである。

(3) 同上、ごみ処理基本計画策定指針と小金井市一般廃棄物処理基本計画の意見： 9/30 付け加藤氏作成

- 推進策は抽象的で、可燃ごみ、不燃ごみ等の各項別の目標値すらない。これで目標管理ができるのか？
- 市民説明会開催の日程を具体的に示していない。
- パブリックコメントと審議会の答申が同じ 12 月。始めからパブリックコメントの意見を審議会の答申に反映する気がない。これほど酷い自治体は見たことがない。民意を蔑ろにした行政ではなからうか。

(4) 同上、土曜生ごみ市民投入状況の記録・検証をし、新計画の取り組みと入れる： 10/7 付け加藤氏作成

「夏休み生ごみ投入など」で誤魔化さず、「夏休み生ごみ投入及び土曜日生ごみリサイクル事業など」と明記すべき。土曜日投入の方が 16.9 トン、夏休み投入は 3.6 トンなのに、行政は土曜日はボランティアが勝手にやっているとの態度である。

## 2. 密閉式建屋における HDM の脱臭方法の検討

(1) 加藤氏より HDM に適用できそうな各種の脱臭法について紹介があった。

(2) 桐生より「排気だけでは処理しきれない量の蒸発水分と匂い成分が放出されるので」「除湿器により水分と匂い成分を室内で水に還元してしまう脱臭法」の提案があった。「小型空調機の成績係数 (COP) は 5.0 以上で大型機 (COP=3 程度) より効率が高い」「太陽光発電と組み合わせると買電量が少なくて済む」との内容。会議の場に具体的な試算を提出する。(桐生は 11/12 は史談会の行事に参加するので、提出は 12 月の会議になる。次回の議事録は川村氏にお願いしたい)

3. 蜂谷氏よりごみ関係資料配付

- (1) 「小金井市のごみ問題を考える (V2.5)」 8頁
- (2) 「野川からの便り／野川短信」 No.1 ～ No.3 計4頁

以上

次回打合せ 11月12日 (水) 10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ  
1/1